

コミュニケーションのための 「-(으)ㄴ가」と「-나」の使い方

커뮤니케이션을 위한 「-(으)ㄴ가」, 「-나」의 사용법

秦 秀 美

本稿에서는 한국어교육에서 사실 여부를 부드럽게 묻는 의문형 종결어미로 설명되고 있는 「-(으)ㄴ가요」, 「-나요」에 대하여 이 설명만으로는 학습자의 이해를 도모하기에 부족함이 있음을 지적하고, 드라마 시나리오에 나타나는 구체적인 용례를 통해 그 쓰임새에 관해 살펴보았다. 특히, 「-(으)ㄴ가」, 「-나」와 「-(으)ㄴ가요」, 「-나요」에 표현되는 내용과 청자가 소유한 정보의 유무에 초점을 맞추고 고찰한 결과, 단순히 사실 여부를 부드럽게 묻기 위한 사용법뿐만 아니라 일반적으로 쓰이는 질문의 형식인 「-아?/-어?」와 「-아요?/-어요?」와는 다른 쓰임새와 그에 따른 커뮤니케이션 기능이 있음이 확인되었다.

キーワード：終結語尾、質問形式、對話場面、情報、發話機能

1.はじめに

近年、韓国語教育においてコミュニケーション能力の育成を中心とした学習内容が目立つようになり、韓国語教科書も実用に近い文型や会話文で構成された内容に変化してきている。

話しことばの教育が重視されるようになってきてから、中級以上で「-(으)ㄴ가요」、「-나요」という韓国語の質問形式の一つである終結語尾の導入が一般的に扱われるようになった。

ところが、「-(으)ㄴ가요」、「-나요」と関連する説明はその使い方を明確にイメージするにはわかりづらい印象を受ける。以下の表1に、韓国語教科書の「-(으)ㄴ가요」、「-나요」と関連する説明とそこに提示されている一部の例文を挙げる。

表1 韓国語教科書での「-(으)ㄴ가요」と「-나요」の扱い

『New 가나다 KOREAN for Japanese 中級1』(2017. P.89) より親しくやわらかく質問するときに多く用いられる終結語尾で、疑問文の形態にのみ用いられる。形容詞と名詞の叙述語 ‘-이다’ の現在形の語幹には ‘-(으)ㄴ가요’ が結合し、形容詞の中で ‘있다, 없다’ と動詞、過去形の語幹には ‘-나요’ が結合して用いられる。 휴대폰 번호가 몇 번인가요? 携帯電話の番号は何番ですか。 이 음식 중에서 어느 게 안 매운가요? この料理の中でどれが辛くないですか。 보통 점심을 어디에서 먹나요? 普通昼食をどこで食べますか。

『easy Korean for foreigners 3』(2014. P.154) ‘~아/어요?’と同じ意味で質問する時に使い、優しくて女性らしい表現である。 A: 아직도 비가 오나요? まだ雨が降っていますか。 B: 아니요, 이젠 그쳤어요. いいえ、もうやんでいます。
『やさしく仕組みがわかる韓国語中級Ⅱ講義ノート』(2015. P.94) <u>動詞の語幹</u> +나요? 動詞に付いて質問の意を表す。柔らかく女性的な感じを与える。同じ意味の語尾「-는가요?」と置き換えられる。 무슨 음식을 좋아하나요? 전 불고기와 냉면을 좋아해요. どんな食べ物が好きですか。私はブルゴギと冷麺が好きです。 形容詞には「-나요?」ではなく、同じく質問の意の語尾「-(으)니까요?」が用いられる。

表1のように、韓国語教科書では「優しい質問、やわらかい質問」といったニュアンスの違いの問題として扱われていることがわかる。また、「-(으)니까요」、「-나요」の文末形式を文法的に適切な形に変える練習に重点を置いているものが多く、表1のような例文から「-(으)니까요」、「-나요」と初級で習得した通常の質問形式の「-아요? /-어요?」の使い方の違いを理解することは困難である。表1の説明と例文では、柔らかいニュアンスという点を除けば、「-(으)니까요」、「-나요」は通常の質問形式の「-아요? /-어요?」に代わって使える質問形式であり、どのような状況でも両形式が置き換え可能であると覚えてしまう恐れがある。

本稿では、ドラマシナリオに現れる「-(으)니까요」、「-나요」とその普通体¹⁾の「-(으)니까」、「-나」がどのような状況で用いられるのか、具体的な使われ方を考察し、韓国語教育における「-(으)니까요」、「-나요」の指導方法や教材開発を考える上での基礎研究とする。

2. 韓国語辞書での「-(으)니까」と「-나」の扱いと先行研究

韓国語辞書での「-(으)니까」、「-나」の説明をまとめたものが以下の表2である(筆者訳)。

表2 韓国語辞書での「-(으)니까」と「-나」の扱い

	『표준국어대사전』(1999) (『標準国語大辞典』)	『고려대한국어대사전』(2009) (『高麗大韓国語大辞典』)	『연세한국어사전』(2002) (『延世韓国語辞典』)
-니까	(‘이다’の語幹、パッチムのない形容詞の語幹、‘에’パッチムの形容詞の語幹、または語尾の‘-으시-’の後に付いて) ①ハゲ体(하게할 자리)で用いられ、現在の事実に対する質問を表す終結語尾。 ②(主に‘-니까 하다’, ‘-니까 싶다’, ‘-니까 보다’の形で用いられて)自分自身に問いかける質問や推測を表す終結語尾。	①母音や‘에’で終わる形容詞、‘이다’の語幹、または先語末語尾‘-으시-’の後に付いて、自分自身に問題提議をしたり、尋ねたりする意味を表すことば。主に文語体や独り言で用いられる。 ②母音や‘에’で終わる形容詞、‘이다’の語幹、または先語末語尾‘-으시-’の後に付いて、相手にある内容を尋ねる意味を表すことば。 ハゲ体(하게체)であり、主に口語体で用いられる。	ハゲ体(하게체)の終結語尾。 I ①相手に尋ねる意味を表す。 ②(尋ねる意味なしで)自分の疑いや疑問を表す。 ③(論文や新聞のような文章で)一般的な問題を提議する意味を表す。 ④(修辭疑問文で用いられて)文章の内容を強調する意味を表す。 ⑤[‘-니까, -니까’の形で用いられて]二つの中のひとつを選ぶように尋ねる意味を表す。

コミュニケーションのための「-(으)ㄴ가」と「-나」の使い方 (秦)

		③母音や‘ㅂ’で終わる形容詞、‘이다’の語幹、または先語末語尾‘-으시-’の後に付き、主に疑問詞と共に用いられて、強調する意味を表すことば。主に修辭疑問文において、文語体や独り言で用いられる。	⑥[‘-인가’の形で用いられて]それぐらいであろうという推測の意味を表す。 Ⅱ[‘-ㄴ가 보다/싶다/하다’の形で用いられて]自分の考えや推測を表す。
-ㄴ가요		①母音や‘ㅂ’で終わる形容詞、‘이다’の語幹、または先語末語尾‘-으시-’の後に付いて、相手にある内容を尋ねる意味を表すことば。へヨ体(해요체)であり、主に口語体で用いられる。 ②母音や‘ㅂ’で終わる形容詞、‘이다’の語幹、または先語末語尾‘-으시-’の後に付き、主に疑問詞と共に用いられて、強調する意味を表すことば。	へヨ体(해요체)の終結語尾。 ①相手に尋ねる意味を表す。 ②〔修辭疑問文で用いられて〕文章の内容を強調する意味を表す。 ③[‘-ㄴ가요, -ㄴ가요’の形で用いられて]二つの中のひとつを選ぶように尋ねる意味を表す。
-나 ¹	(主に動詞の語幹や語尾‘-으시-’, ‘-았-’, ‘-겠-’の後に付いて) ①ハゲ体で用いられ、質問を表す終結語尾。 ②(主に-나 하다, -나 싶다, -나 보다’の形で用いられて)自分自身に問いかける質問や推測を表す終結語尾。 ③へ体(해할 자리)で用いられて、質問を表す終結語尾。	①動詞や‘있다’, ‘없다’の語幹、または先語末語尾‘-으시-’, ‘-았-’, ‘-겠-’の後に付き、主に‘보다’または‘싶다’などと共に用いられて、ある事実に対して自ら推測する意味を表すことば。 ②動詞や‘있다’, ‘없다’の語幹、または先語末語尾‘-으시-’, ‘-았-’, ‘-겠-’の後に付いて、ある事実について相手に尋ねたり、自分自身で自問する意味を表すことば。へ体(해체)であり、主に独り言で用いられる。	終結語尾。 Ⅰ①話そうとする内容について、話し手自身が疑いを抱えていることを表す。 ②〔修辭疑問文で用いられて〕話す内容について本当はそうではないことを表す。 Ⅱ事実の羅列に用いる。‘-는가’の意味。 Ⅲ‘-나 보다’のような形の補助用言構成に用いられる。
-나 ²	軍隊のように上下関係が明確で、格式を重視する社会で多く用いる。 ④自分自身に問いかける質問を表す終結語尾。	動詞や‘있다’, ‘없다’の語幹、または先語末語尾‘-으시-’, ‘-았-’, ‘-겠-’の後に付いて、ある事実について相手に尋ねたり、自分自身で自問する意味を表すことば。ハゲ体であり、主に口語体で用いられる。	ハゲ体の終結語尾。 ‘-는가’の意味を表す。
-나요		動詞や‘있다’, ‘없다’の語幹、または先語末語尾‘-으시-’, ‘-았-’, ‘-겠-’の後に付いて、ある事実について相手に尋ねる意味を表すことば。へヨ体であり、主に口語体で用いられる。	へヨ体の終結語尾。 ‘-는가요’の意味を表す。
-은가	(‘ㅂ’以外のパッチムがある形容詞の語幹の後に付いて) ①ハゲ体で用いられ、現在の事実に対する質問を表す終結語尾。 ②(主に‘-은가 하다’, ‘-은가 싶다’, ‘-은가 보다’の形で用いられて)自分自身に問いかける質問や推測を表す終結語尾。	①‘ㅂ’以外の子音で終わる形容詞の語幹の後に付いて、自分自身に問題提議をしたり、尋ねる意味を表すことば。主に文語体や独り言で用いられる。 ②‘ㅂ’以外の子音で終わる形容詞の語幹の後に付いて、相手にある内容を尋ねる意味を表すことば。ハゲ体であり、主に口語体で用いられる。 ③‘ㅂ’以外の子音で終わる形容詞の語幹の後に付き、主に疑問詞と共に用いられて、強調する意味を表すことば。主に修辭疑問文において、文語体や独り言で用いられる。	終結語尾 ㄹ-ㄴ가
-은가요		①‘ㅂ’以外の子音で終わる形容詞の語幹の後に付いて、相手にある内容を尋ねる意味を表すことば。へヨ体であり、主に口語体で用いられる。 ②‘ㅂ’以外の子音で終わる形容詞の語幹の後に付き、主に疑問詞と共に用いられて、強調する意味を表すことば。	終結語尾 ㄹ-ㄴ가요

辞書に共通して見られる用法については、大きく「話し手の自問」、「聞き手への質問」、「修辭疑問（反語の表現）」にまとめられる。『표준국어대사전』(1999)では「-(으)ㄴ가」、「-나」の普通体のみを挙げているが、『고려대한국어대사전』(2009)と『연세한국어사전』(2002)では普通体の「-(으)ㄴ가」、「-나」とその丁寧体の「-(으)ㄴ가요」、「-나요」の形式を区分して挙げている。また、丁寧体の「-(으)ㄴ가요」、「-나요」の主な用法は「聞き手への質問」となっているが、「聞き手への質問」として使われる場合の「-(으)ㄴ가요」、「-나요」は単純に「聞き手への質問」として使われる場合の「-(으)ㄴ가」、「-나」の丁寧形を意味する区分のように見受けられるが、「聞き手への質問」に使われる場合の両形式の用法に待遇スタイル以外の相違点はないだろうか、疑問が残る。

また、韓国語教育用の辞書及び解説書では上記の用法に加えて、使用者とニュアンスに関する記述が見られる。『〈신개정〉외국인을 위한 한국어문법』(『新改訂〉外国人のための韓国語文法』1997, P.161)では「-나(요)」を取り上げ、「事実の如何を少し柔らかく尋ねる疑問形の終結語尾で、後ろに‘-요’が付くと聞き手を高める形になる。また、これは‘-(으)ㄴ/는가(요)’に置き換えて使える(筆者訳)」と記述されている。また『외국인을 위한 한국어문법 2-용법편』(『外国人のための韓国語文法 2-用法編』2005, P.114)では「-나요」について「柔らかく女性らしい感じを与えるため、男性より女性のほうがより多く用いる(筆者訳)」と記述されており、韓国語教科書での記述と共通していることがわかる。

一方、韓国語文法研究の分野における「-(으)ㄴ가」、「-나」の扱いは、文末形式の終結語尾を総合的に考察する内容の一部として、簡略に言及されている程度のもが多い(남1985、한1991、허1995)。しかし、안(2015)では「-(으)ㄴ가」、「-나」を取り上げ、「-(으)ㄴ가」、「-나」の語尾の結語形式、及びその用法について考察している。안(2015)はコーパス資料を用いて韓国語母語話者の使用を分析しており、次のようなことについて述べている。

- ① 直接質問、問題提議、選択質問、引用節や名詞節を導く機能、「보다, 싶다, 하다」の節を導く機能がある。
- ② 「있다, 없다」または動詞の語幹に付く「-나」が「괜찮나요」「같나요」のように形容詞の語幹に付くことも多く現れており、用言の結合形式に変化(ゆれ)が見られる。
- ③ 話しことばでは「-(으)ㄴ가요」に比べて「-나요」の使用頻度が高らかに高く、「-(으)ㄴ가요」が「-나요」に統合される傾向にある。
- ④ 「-나요」の使用における男女差は見られない。

韓国語教育では「女性らしい表現」という説明が度々見られるのに対して、안(2015)の考察では男女による使用の偏りがないことから、韓国語教育での扱いにおいて再考を必要とする部分であるように思われる。

안 (2015) では「聞き手に直接答えを要求する質問」を最も代表的な用法として挙げられているが、質問として使われる場合の具体的な使用状況、及び用法についての考察は見当たらない。先行研究では質問として使われる場合の詳細な分析はほとんどなく、どのような状況での質問なのかを考えた上での考察が必要であると考えられる。それによって、通常の質問文とどのような違いがあるのかが明らかになると考えられる。本稿では、終結語尾の「-(으)ㄴ가」、「-나」(「-(으)ㄴ가요」、「-나요」) について具体的な使われ方をみていくことにする。

3. 考 察

本稿では、「-(으)ㄴ가」、「-나」が「話し手の自問」に使われる特徴から、「聞き手が存在しない場合」と「聞き手が存在する場合」に分けて考察する。さらに、「聞き手が存在する場合」は話し手と聞き手との関係が関わる待遇スタイルの違いによって、「同等の関係での対話場面」、「丁寧体の「-(으)ㄴ가요」と「-나요」が使われる対話場面」、「上下関係における上位者から下位者に向けられて使われる対話場面」の三つに分け、それぞれの使い方の特徴について見ていくことにする。

また、日本語学の神尾 (1990) による「情報のなわばり」、牧原 (1994)、三宅 (2010)、森山 (1989) による「情報」に関する理論や概念を援用し、「情報」の有無が「-(으)ㄴ가」、「-나」(「-(으)ㄴ가요」、「-나요」) の質問形式の選択にどのような関わりを持つのかに注目して、考察を進めることにする。

3.1 聞き手が存在しない場合

ここでは、聞き手に問いかけや伝達を意図することはなく、聞き手の存在を前提としない場合に用いられる「-(으)ㄴ가」、「-나」について考察する。

- (1) 〈お菓子の広告を見て〉 이거, 맞았나? (これ, おいしいのかな。)
- (2) 그 사람 말, 진짜인가? (彼の話, 本当かな。)

例(1)は話し手にとって未確認・未知のことであり、そのことと関連する情報や認識が欠如しているため、そうであるかどうか自分自身に問いかける単なる疑いであり、例(2)は話し手があらかじめ持っている情報や認識が正しいかどうか不確かであるために生じる疑念である。また、(3)(4)のように、話し手が推し量ったことと発話時の状況(事柄)が食い違うため、発話時に認識された確かではない状況(事柄)に疑念を表す例もある。

- (3) 〈部屋に入ってくるが、ヨンスがいない〉

나레 : 애가 아직도 안 들어왔나?

(ナレ : あいつまだ帰ってこないのかな?)

㉔

(4) 〈いると思っていたイナの姿が見えない〉

종구 : 어, 앤, 여기서 기다리라고 해놓고, 어디 나갔나?

(ジョング : ここで待ってるってたのに、どこか出かけたのかな?)

㉕

これに対して、発話時に自明になった事柄であっても、話し手の発話時の認識と、その情報を獲得する以前の認識 (例(5)では「それほど時間が経っていないだろう」) との間のギャップに疑念を抱く場合の例(5)がある。発話時に初めて認識されたことを表す点で例(3)(4)と共通しており、驚きや不思議に思う気持ちが含まれる。

(5) 강미희 : 〈시계 보며〉 시간이 벌써 이렇게 됐나?

(カンミヒ : 〈時計を見て〉 もうこんな時間?)

㉖

以上のように、「-(으)ㄴ가」、「-나」は聞き手が存在しない場面で心内発話や独り言として用いられており、話し手がある事柄に疑念を抱く表現であるが、その内容には未知のことに対する単なる疑いから不確かな情報に抱く疑念、認識のギャップから生じる疑念などがあることがわかる。

3.2 聞き手が存在する場合

3.2.1 同等の関係での対話場面における「-(으)ㄴ가」と「-나」の使われ方

親しい友人同士や家族間における「-(으)ㄴ가」、「-나」の使用について、まず3.1の例(1)の「맛있나?」を取り上げ、大まかな特徴について見ることにする。

3.1の心内発話や独り言としての「맛있나?」はそのことと関連する情報が話し手にはなく、未知であるために生じる疑いであった。仮に同等の関係での対話場面で聞き手においしいかどうかお菓子についての情報を求める場合は、例(6)のような会話の流れで聞き手が情報を持っているかどうかを確認した後、具体的に尋ねることになる。

(6) 〈お菓子の広告を見て〉

A : 이 과자, 먹어 봤어?

(このお菓子、食べたことある?)

B : 응.

(うん。)

A : 맛있어?

(おいしい?)

B : 그냥 그래.

(まあまあだよ。)

聞き手が広告のお菓子を食べたことがあるという情報を得てからの質問には、例(6)のようにその答えを求める「맛있어? (おいしい?)」という質問形式で尋ねなければならない。これに対し、「맛있나?」は聞き手に情報があることが明らかな場合は適切な発話ではなくなるのである。

要するに、「맛있나?」は聞き手に情報があることが確実な場合は使えないため、未知のことについて聞き手に命題の真偽の判断を委ねる場合の質問には向かないことを意味する。「맛있나?」は聞き手がお菓子を食べたことがあるという経験の有無、つまり聞き手の情報の有無を考慮に入れる必要のない段階の発話であり、同等の関係での対話場面であっても話し手にとって未知のことのため、判断不能であることを示すのに意味があると考えられる。

このように、基本的に「-(으)ㄴ가」、「-나」は聞き手に情報があるかないかを問題とせず、話し手が判断し得ない事柄についての疑念を示すため、聞き手に積極的に尋ねることを目的としない発話のように見られるが、対話場面では聞き手の反応を期待する質問としての使い方が可能である。

例(7)(8)では、話し手自身の感情や行為に対して、「もしかして憎んでいるかもしれない」、「もしかして作りすぎたかもしれない」という確信が持てない推し量りの内容を表す発話に「-(으)ㄴ가」、「-나」が用いられている。例(7)は話し手の感情のため、聞き手が判断可能なことではなく、聞き手から返ってくる答えの内容は、話し手の発話と関連性のある聞き手の意見になっている。また、例(8)は話し手の発話時以後、新しく得た情報について聞き手が判断を下しているが、その判断内容を改めて話し手に確認する発話になっている。

以上のような「-(으)ㄴ가」、「-나」の発話は、独話場面では独り言としてそのまま使われるが、同等の関係での対話場面では話し手だけでは判断不能なことについて、聞き手がどのように思うのか【意見を求める】場合に使われる質問の働きをしていると言える。

(7) 유진 : 만나보니까 어때?

(유진 : 会ってみてどんな気がした?)

준상 : 잘 모르겠어... 처음엔 그냥 아무 감정이 없었어. 어떤 사람인지... 그 사람의 무얼 닮았는지... 그냥 궁금했을 뿐인데...

(준상 : よくわからないな...。最初はなんの感情もなかった。どんな人なのか... その人のどこに僕が似ているのか... 気がかりなだけだったのに...)

유진 : 그런데?

(ユジン：それなのに?)

준상：글쎄…날 전혀 기억 못하는 것처럼 보이니까…기억해 줬더라면 좋았을텐데…나, 그 사람 미운건가?

(ジュンサン：そうだなあ…僕のことをまったく覚えていないように見えるから…、覚えていてくれればよかったのに…僕、その人を憎んでいるのかな。)

유진：아무리 미워도…아버지가 있다는 건 좋은거야. 살아계시다면.

(ユジン：どんなに憎くても…お父さんがいるってことは幸せよ。生きているなら…)

㊤

(8) 〈テーブルの上にご馳走が並べられる〉

준상：너무 많이 했나?

(ジュンサン：ちょっと多すぎたかな?)

유진：아, 참! 어쩍 진숙이 올지도 몰라.

(ユジン：あっ、そうだ。もしかしたらジンスクが来るかもしれない。)

준상：진숙이가?

(ジュンサン：ジンスクか?)

유진：어, 다른 애들은 바쁠 거 같아서 내가 제일 고등학교 방송반 대표로 불렸어. 〈만들어 놓은 음식을 보며〉 그래도 좀 많기는 하다…그치?

(ユジン：うん。他の人たちは忙しそうだから、私が第一高校放送部の代表として呼んだの。〈作った食べ物を見て〉 それでも、ちょっと多過ぎたことは多過ぎた…でしょ?)

㊤

また次の例(9)は、聞き手と友達になれたのではないかと思っではいるものの、話し手だけの断定では事柄が成立しないため、話し手と聞き手の両方の認識の一致を【確かめる】場合に使われる「-(으)ㄴ가」、「-나」の例に該当する。

(9) 준상：우리…이제 친구가 된건가?

(ジュンサン：僕たち…やっと友達になれたかな?)

상혁：〈손을 내민다〉

(サンヒョク：〈手を差し出す〉)

준상：〈손을 잡고〉 딱 십년이다…오래 걸렸다…

(ジュンサン：〈手を握って〉 ちょうど10年、長かった…)

㊤

このように、「-(으)ㄴ가」、「-나」は話し手がわからないことについて返答を求めるのではなく、ある事柄について話し手だけでは判断しかねるため、それと関連する聞き手の【意見を求

める】時や、【確かめる】時に使われる。これは聞き手に命題の真偽を問う「-아? /-어?」などの通常の質問と異なる点である。

一方、聞き手の言動から得られた情報と、話し手のそれまでの情報や認識との間にギャップがあり、そのギャップに疑念を抱く発話においても「-(으)ㄴ가」、「-나」が用いられる。これは対話場面ならではの特徴とも言えるが、聞き手との会話のやりとりの中で得られた情報や認識のギャップに対する話し手の反応であり、話し手の疑念が聞き手に伝えられている点で独り言と異なる。

聞き手の言動から得られた情報が話し手に認識されず、そのことに関して疑念を表すことは、話し手の情報や認識の方の正しさを主張することに繋がる場合がある。聞き手から得られた情報に理解を示すことができず、例(10)のような【不思議に思う気持ち】や、例(11)の「今も苦しい状況であることは変わらない」という【反語の表現】に用いられる。

- (10) 〈弟の部屋でパソコンにパスワードがかけられているのを見る〉

민철 : 컴퓨터에 암호까지 걸어놓 필요가 있나?

(민철 : コンピューターにパスワードまでかけておく必要があるのかな。)

선재 : 어... 학교에 가져가려면 이 사람 저 사람 만지고 그러니까...

(弟 : ああ...、学校に持っていくと、いろんな人が触ったりするから...)

㉮

- (11) 연수 : 그거야 그땐 여기 사정이 너무 어려웠으니까...

(연수 : それは、その時はここの事情がすごく苦しかったから...)

세나 : 지금은 뭐 안 어렵나?

(세나 : 今は何よ、苦しくないの?)

연수 : 아무리 어려워두 언니가 우리 세나 수학여행은 꼭 보내줄거야.

(연수 : どんなに苦しくても、お姉ちゃんがセナを修学旅行には絶対行かせてあげるから。)

㉮

このように、聞き手の言動から得られた情報に疑念を表す場合の「-(으)ㄴ가」、「-나」は、会話の状況や文脈によって【不思議に思う気持ち】から【皮肉】、【驚き】、【反論】などまで、話し手の気持ちが含まれる発話として現れる。

以上、「-(으)ㄴ가」、「-나」は基本的に聞き手の情報の有無を問題としないという点で、心内発話や独り言の拡大用法とも思われるが、同等の関係での対話場面では聞き手に情報があることが確実な場面で、その情報要求のための通常の質問には使えないことが明らかであり、その使われ方の特徴は次のようにまとめられる。

- ① 聞き手の情報の有無は問題とせず、話し手だけでは判断不能なことについて聞き手の

意見を尋ねる

- ② 話し手と聞き手の情報の一致・不一致を確かめる
- ③ 聞き手の言動から得られた情報に理解を示すことができない反語の表現

3.2.2 丁寧体の「-(으)ㄴ가요」と「-나요」の使われ方

ここでは、話し手と聞き手の年齢、地位、立場などの関係において、下位者から上位者に向けられた発話、または疎遠な関係の人との対話場面における「-(으)ㄴ가요」、「-나요」の使用について考察する。「-(으)ㄴ가요」、「-나요」は「-(으)ㄴ가」、「-나」に丁寧語形式の「-요」がついた形である。まず、3.1の例(1)の「맛있나?」に丁寧語形式の「-요」をつけた「맛있나요?」を取り上げ、大まかな特徴について見ることにする。

「맛있나요?」は3.2.1の同等の関係での対話場面における「맛있나?」と違って、聞き手が情報を持っていないことが確実な場合には使えず、3.2.1の例(6)のように聞き手が情報を持っていることが明らかな場合に使われる。実際、「맛있나요?」は日本語の「おいしいですか」の意味に該当する。聞き手が広告のお菓子を食べたことがなく、お菓子についての情報を持っていないことが明らかな場合は、聞き手の推量を尋ねる「맛있을까요? (おいしいでしょうか/おいしいと思いますか)」という質問形式を使わなければならない。では、「맛있나요?」は通常の質問形式の「맛있어요? (おいしいですか)」とどのような違いがあるのだろうか。「-(으)ㄴ가요」、「-나요」と通常の質問の「-아요? /-어요?」との相違点を探るために、まず聞き手が情報を持っていることを前提に使われる「-(으)ㄴ가요」、「-나요」について見ていくことにする。

以下の例(12)は【話し手が持っている情報や認識が確かではなく、聞き手に確かめる】場合の例であり、例(13)は【話し手が推し量った事柄について、それが成り立つ可能性に確信を持たないため、聞き手に確かめる】場合の例である。両方とも「-(으)ㄴ가요」、「-나요」を用いて聞き手に返答を求めていることがわかる。

- (12) 진희: 민수연 씨 아직 병가중인가요?

(ジンヒ: ミンスヨンさんはまだ病氣療養中ですか。)

미란: 네.

(ミラン: はい。)

㊦

- (13) 선재: 여쭙볼게 있어서 찾아왔습니다.

(ソンジェ: お聞きしたいことがあって参りました。)

미미: ?

(ミミ: ?)

선재: 혹시...뮤즈에서 개최하는 추모 가요제 그 분말인데, 그 분이 혹시...지난번에

말씀하셨던 저와 손이 닮았다는 그 분인가요?

(송जे: もしや…、ミューズで開催する追悼歌謡祭のあの方のことですが、あの方はもしかして…こないだおっしゃっていた、私と手が似ているという、あの方ですか。)

미미: 맞아요. 그 분이 이영준 선생님이세요.

(미미: そうよ. その方が、イヨンジュン先生よ。)

선재: 그럼 그 분이…제 아버지신가요?

(송जे: ではその方が…、私の父なんですか。)

미미: …그래요.

(미미: …そうよ。)

㉔

上記の例(13)のように、「确实でないが、その可能性があること」を示す副詞の「혹시 (もしかして)」と共起して使われると、質問の内容に抱く「確かなことではないけれど」の意味がよりはっきり現れる。

また、例(14)(15)(16)のように「혹시 (もしかして)」が使われない場合であっても、「-(으)ㄴ가요」、「-나요」の発話にはそういった意味の読み取りが可能であるように思われる。すなわち、「-(으)ㄴ가요」、「-나요」には「ひょっとして、もしかして、確かではないけれど」という質問の内容に対する話し手の伝え方が表れていると言えよう。これに対し、通常の質問形式の「-아요? /-어요?」にはこのような意味が含まれておらず、确实ではないがその可能性があるという話し手の伝え方を表すためには、「혹시 (もしかして)」という副詞を必ず必要とする点で異なる。

(14) 미미: 이실장님! 제로는 이선재 군이 아닌가요?

(미미: イ室長! ZEROはソンジェ君じゃないのかしら?)

민철: …

(イ室長: …)

미미: 이 실장님두 아니라고 대답은 못 하시네요.

(미미: イ室長も違うというお応えはできないのね。)

㉕

(15) 〈昔の仲間の目に映ったジュンサンのことを知りたがっているミニョン〉

민형: 상혁 씨랑 주먹다짐 같은 것도 있었을 법한데…용국 씨, 그런일은 없었나요?

(미니ョン: サンヒョックさんと殴り合いみたいなこともあったはずだけど…ヨングクさん、そんなことはありませんでしたか。)

㉖

(16) 미희: 아가씨가…우리 민형이한테 준상이에 대해서 이야기했나요?

답았다구… 똑같다구…

(ミヒ：お嬢さんが…うちのミニョンにジュンサンの話をしたんですか。

よく似てるって…そっくりだって。)

㊤

このような「-(으)니까요」、「-나요」の使われ方と通常の質問の「-아요? /-어요?」の使われ方の違いを示唆してくれる例に(17)がある。最初の発話は「話し手が推し量った事柄について、それが成り立つ可能性に確信が持てないため、聞き手に確かめる場合」の使い方である「맞나요?」を用いて問いかけるが、返事がない。それに反応して、もう一度「맞아요?」という通常の質問形式に切り替えて問いかけを繰り返すことで、相手が持っている情報を強く求めている。通常の質問形式による情報要求は答えを求めるのに適しており、聞き手に答えを求める話し手の気持ちが「맞아요?」の発話に現れている。このようなことから、両形式の使い方に違いがあることがわかる。

(17) 준상 : 제 아버지가 정현수 씨 맞나요?

(ジュンサン：僕の父親がチョン・ヒヨンスさんなのは確かなの?)

미희 : …

(母 : …)

준상 : 어머니? 제 아버지…유진이 아버지 맞아요?

(ジュンサン：母さん…? 僕の父親は…ユジンのお父さん?)

미희 : …미안하다, 준상아.

(母 : …ごめんね, ジュンサン。)

㊤

これまで聞き手に情報があることが前提の「-(으)니까요」、「-나요」について、話し手があるかじめ持っている情報や、推し量った内容を【確かめる】ために使われると述べたが、聞き手の先行発話から得られた情報の意味を確かめる場合にも使われる。

例(18)は聞き手の先行発話から、「もしかして、かなり危険な状態かもしれない」と推し量った内容を確かめる発話に「-(으)니까요」、「-나요」が使われている。「위험한가요?」は危険の可能性を推し量っていることから心配の気持ちが込められているが、通常の質問の「위험해요?」は危険であるかそうでないかを単純に尋ねる意味になる。

(18) 의사 : 빨리 수술받으셔야겠습니다.

(医者 : 一刻も早い手術が必要です。)

준상 : 많이 위험한가요?

(ジュンサン : かなり危険な状態ですか。)

의사 : 혈종이 위험한 위치에 있기 때문에 이대로 방치하면 안구를 압박해서 시력을

잃을 수도 있습니다.

(医者: 血腫が危険な位置にありますので、このまま放置すると眼球を圧迫して視力を失う恐れがあります。) ㊤

また、例(19)(20)のように、聞き手の先行発話から得られた情報が不完全にしか認識されていないことを表すために、自分が理解したかどうかを聞き手に確かめる発話や、聞き手の発話の意味をもう一度尋ねる時に使われる場合もある。

(19) 유진: 일은 마음에 들어야 하지만 반드시 고객까지 그럴 필요는 없다고 생각하는데요.

(유진: 仕事は気に入らなければできませんが、必ずしも顧客までその必要はないと思います。)

민형: 일과 사람은 별개라는 말인가요?

(미니ョン: 仕事と人は別っていうことなんですか。)

유진: 맞는 사람하고만 일했다면 오래 전에 이 일을 그만뒀을거예요.

(유진: 気の合う人とだけ仕事をしていたとすれば、とっくの昔に仕事に終わりがきっていたでしょう。) ㊤

(20) 진우: 그동안 몰랐다는게 이상하구나. 이렇게…니 할아버지를 닮았는데…내가 지금까지 몰랐다는게 이상해. 그래서 니가 그렇게 내 마음에 남았던거구나.

(진우: これまで気がつかなかったのが実にふしぎだなあ。こんなに…お前のお祖父さんに似ているのに…。だからお前のことがあんなに心に深く残っていたんだなあ。)

준상: 그게 무슨 말씀인가요?

(준상: それはどういうことですか。) ㊤

以上、聞き手が情報を持っていることを前提にして使われる「-(으)ㄴ가요」、「-나요」について述べてきたが、厳密に言う、「聞き手に情報があることが確実な場合」や、「少なくとも話し手よりも聞き手の方に情報が多いことが確実な場合」の使い方となる。

それに対して、次は聞き手が情報を持っているかどうかが確実でない場合の使い方について見ていくことにする。3.2.1の同等の関係での対話場面で取り上げた例(7)(8)の発話の文末を「-(으)ㄴ가요」、「-나요」に変換するだけで、丁寧体においても話し手だけでは判断不能なことについて、聞き手の意見を尋ねる時の使い方になる。

ここで、聞き手が情報を持っているかどうかは確実でない場合の例として、「道行く人にわからないことを尋ねる時」の発話を取り上げ、その使い方について考える。以下の例(21)(22)は、道で話し手が探している銀行の場所がわからない状況で、その情報を得るための発話である。

- (21) 저기 죄송한데요, 이 근처에 은행이 어디 있어요?
(あのう、すみませんが、この近くに銀行はどこにありますか。)
- (22) 저기 죄송한데요, 이 근처에 은행이 어디 있나요?
(あのう、すみませんが、この近くに銀行はどこにありますか。)

両方とも一般的に使われる発話であるが、例(21)の「있어요?」に比べて、例(22)の「있나요?」の方が聞き手に気を使っており、丁寧さが感じられる印象を与える言い方のように思われる。

「-아요? /-어요?」は聞き手に情報があることを前提にして使われる情報要求の一般的な質問形式であるが、聞き手が情報を確実に持っているかどうか確かでない場合に使われると、場合によっては多少唐突で直接的すぎる印象を持たれてしまうことがある。

これに対し、聞き手が情報を持っているかどうか確かでない場合の「-(으)니까요」、「-나요」は、聞き手に命題の真偽の判断を委ねるのではなく、聞き手の意見を尋ねる時の使い方となる。そのため、答えを求める通常の質問形式である「-아요? /-어요?」に比べて、直接問う言い方ではなく、不躰でない印象を与える言い方になるのではないかと考えられる。

質問である以上、聞き手に情報がある可能性を想定して尋ねるのは当然のことであろうが、「-(으)니까요」、「-나요」は実際聞き手が情報を持っていない可能性も十分に考慮した上での質問であるように思われる。このような理由から、聞き手を通して第三者についての情報を求める場合においても、実際には聞き手が情報を持っていない可能性を含めて、「-(으)니까요」「-나요」が使われやすいと考えられる。

その一方、3.2.1で聞き手の言動から得られた情報に理解を示すことができず、疑念を抱く発話に「-(으)니까」、「-나요」が用いられることについて述べたが、「-(으)니까요」、「-나요」においても、例(23)(24)のような使われ方となる。同等の関係での対話場面における使い方と同じく、「-(으)니까요」、「-나요」の発話は【反語の表現】となり、聞き手に対する【非難】や【不満】などの気持ちを表す。

- (23) 〈振り向いて出て行きながら殺気立った表情でミンチョルを睨み付けて〉
세나: 결국 이럴려고 날 회사로 불러들였나요? 언닌 언니대로 이용하고, 난 나대로 고생시키고... 이렇게 실장님 목적이예요?
(セナ: 結局こうするためにあたしを会社呼び入れたんですか。 お姉ちゃんはお姉ちゃんなりに利用して、あたしはあたしなりに苦労させて...これが室長の目的ですか。)
Ⓜ
- (24) 미희: 이름도 다르고... 사람도 다르다고 느꼈으면 그냥 다른 사람이겠구나 해주는게 예의 아닌가요?
(ミヒ: 名前も違って雰囲気も違ってた、ああ別人なんだなあってそっとして

おくのが礼儀じゃないんですか。

㉔

以上のように、「-(으)ㄴ가」、「-나」とその丁寧形の「-(으)ㄴ가요」、「-나요」は、聞き手が情報を持っていないことが確実な場面以外で使われていることが明らかであり、その特徴は次のようにまとめられる。

- ① 聞き手が情報を持っていることを前提にする場合（「聞き手に情報があることが確実な場合」や、「少なくとも話し手より聞き手に情報が多いことが確実な場合」）
 - ・話し手があらかじめ持っている情報や聞き手から得た情報に対する話し手の疑念を確かめる
 - ・話し手が押し量った事柄について、それが成り立つ可能性に確信を持ってないため、聞き手に確かめる
- ② 聞き手が情報を持っているかどうか確かでない場合
 - ・話し手だけでは判断不能なことについて聞き手の意見を尋ねる
 - ・意見の求めではない情報求めの場合は、直接返答を求めない不躰でない尋ね方に使われる
- ③ 聞き手の言動から得られた情報に理解を示すことができない反語の表現

3.2.3 上下関係における上位者から下位者に向けられた「-(으)ㄴ가」と「-나」の使われ方

上下関係における上位者から下位者に向けられた発話に用いられる「-(으)ㄴ가」、「-나」は、韓国語の待遇スタイルの一つである「하계체（等称）」の代表的な形式とみなされている。「하계체（等称）」は聞き手と年齢、地位が離れている上位者であることを示すものであり、下位の関係の人（成人以上の相手）に対する尊重のニュアンスが含まれたスタイルとして位置づけられている。

同等の関係での対話場面や丁寧体での対話場面においては、それぞれの使い方に通常の質問形式との違いが見られたが、上位者から下位者に向けられて使われる「-(으)ㄴ가」、「-나」は、3.2.2で考察した使い方を始め（例(25)(26)、例(27)(28)(29)のように上司と部下がごく普通に交わす、仕事内容の情報を求める対話の場合にまで広く使われていることがわかる。通常の質問形式の「-아? /-어?」と変わらない使い方も目立っており、両形式の使い分けは「하계체（等称）」と「해체（略待）」²⁾の待遇スタイルの違いに起因すると考えられる。

(25) 〈大学の授業に許諾なしで入ったジュンサン。担当教授がコートの下ジュンサンの襟元のバッジに目を止める〉

교수: 자네, 혹시 고등학생인가?

- (教授：君、ひょっとして高校生かね?) ㊸
- (26) 진희：오랜만이야.
 (진희：久しぶりね。)
 진희：얼마만이지? 이년쯤 됐나?
 (진희：何年ぶりかしら? 2年ぶりかしら?)
 수연：네.
 (스ヨン：ええ….) ㊸
- (27) 성준：오늘 양미미도 오나?
 (송춘：今日はヤンミミも来るのか。)
 기찬：그렇습니다.
 (秘書：そのようです。) ㊸
- (28) 장：별다른 움직임은 없나?
 (上司：変わった動きはないか。)
 정준：서울에서 친구들을 불러내렸습니다.
 (部下：ソウルから友達を呼び寄せました。) ㊸
- (29) 장：정준일이 지금 어딤나?
 (上司：チョンジュニルは、今、どこにいる?)
 정준：서울 올라왔습니다.
 (部下：ソウルへ行きました。) ㊸

以上のようなことから、上位者から下位者に向けられて使われる「-(으)ㄴ가」、「-나」の発話は、位相語としての意味を持つ質問形式であると言えよう。

안 (2015) では、コーパス資料に「하계체」はほとんど見当たらなかったと言及されているが、本稿でドラマシナリオから取り上げた資料では、年齢や地位がかけ離れた上下関係の対話場面において高頻度で現れており、相違がみられる。コーパス資料に年齢や地位のかけ離れた壮年層との対話場面がどの程度含まれていたのかについて疑問が残る一方、ドラマシナリオが韓国の社会現象や言語生活を反映しているといえども、年齢や地位の高い者を表すステレオタイプ化された使い方として「하계체 (等称)」が現れる可能性も否定できないため、今後、実際の使用実態に関する検討が必要である。

4. 韓国語教育への応用

これまでの考察から、「-(으)ㄴ가」、「-나」と、通常の質問形式である「-아? /-어?」(または「-(으)ㄴ가요」、「-나요」と「-아요? /-어요?」)との間には使い方に相違のあることが明

らかになった。上記1.で確認したように、韓国語教科書では本稿で考察した使い方がランダムに扱われており、使用状況を把握しにくい。また、通常の質問形式である「-아요? /-어요?」の代わりに使えるという前提のもとに例文が提示されたり、会話練習用のセンテンスが提示されている場合が少なくないため、学習者に明確なイメージを持たせることができず、理解に困難をきたすことが少なくない。因みに、本稿で取り上げたドラマシナリオでは、韓国語教科書に見られる「무슨 음식을 좋아하나요? (どんな食べ物が好きですか)」、「보통 점심을 어디에서 먹나요? (普通昼食をどこで食べますか)」のような、聞き手本人の好みや習慣を尋ねる発話は見当たらなかった。このような例文を否定するわけではないが、通常の質問形式である「-아요? /-어요?」が使えないほど人間関係が成立していない(または、心理的な距離がある)相手ではない限り、通常の質問形式を使って不都合はない。むしろ、その方が自然ではなからうか。教育に取り入れる場合は、一般的により多く使われる例文や会話文を提示することが重要となる。

「-(으)ㄴ가요」、「-나요」は、初級レベルで通常の質問形式である「-아요? /-어요?」を習得した後、中級レベルでの扱いになるが、質問形式の一つとしての単純な導入ではなく、実際の使用状況を重視した導入を検討しなければならない。そのためには「-(으)ㄴ가요」、「-나요」が何をするための発話なのか、発話機能の側面と関連付けて提示することが有効であると考えられる。

たとえば、「聞き手が情報を持っているかどうか確実にない場合」の場面設定として「第三者のことにについて尋ねる」、または例30のように「道行く人にわからないことを尋ねる」といった場面と結びつけて【情報要求】の機能を提示することが可能である。

(30) A : 저기 죄송한데요.

(あのう、すみません。)

B : 예.

(はい。)

A : 이 근처에 우체국이 어디 있나요?

(この近くに郵便局はどこにありますか。)

B : 우체국이요? 저기 첫번째 사거리에서 오른쪽으로 꺾 가시면 구청이 나오는데, 그 뒤쪽에 있어요.

(郵便局ねえ…向こうの交差点を右に曲がってまっすぐ行くと、市役所が見えます。市役所の裏にありますよ。)

A : 아, 네. 감사합니다.

(そうですか。ありがとうございます。)

道案内所といった「聞き手に情報があることが確実な場合」であれば、通常の質問形式の「이 근처에 우체국이 어디 있어요?」を取り入れた会話文を初級レベルで提示する。勿論、韓国語母語話者であっても、会話場面での心理的な距離、個々人の言語習慣や言語感覚など複雑な要因が絡むため、上記のように明確に使い分けをしているわけではない。しかし、学習者にとってはこのような使い分けの基準を理解することが必要であって、その使い分けの基準を理解したうえで、教科書に提示された例文や会話文に十分に慣れることが重要となる。その積み重ねの結果、徐々に「-(으)니까요」、「-나요」の自然な使い方をイメージできるようになると考えられる。

また、【確かめる】という発話機能の内容では、「自分が理解したかどうか確かめる」、「自分のやり方が正しいかどうか確かめる」、「自分の推し量りの可能性を確かめる」などの項目を設定した上で、会話文に取り入れることが可能である。

【意見を求める】発話機能、そして話し手と聞き手の間の情報ギャップに対する反語の表現では、【意見を主張する】、【反論する】の発話機能と関連付けて取り入れることも考えられる。

その一方で、インターネット上の質問には「-(으)니까요」、「-나요」の使用が目立つが、これは本稿で考察したように、「ある情報や話し手の推し量り」について【確かめる】、または【意見を求める】といった「-(으)니까요」、「-나요」の発話機能に基づいた使い方の現れであると考えられる。このようなインターネット上に質問を書くという設定の練習を取り入れることも実用的であろう。

5. おわりに

本稿では、「-(으)니까」、「-나요」の使い方について「情報」との関わりに注目して述べてきたが、単にニュアンスを柔らかくする終結語尾ではなく、「-(으)니까」、「-나요」の独特の使用ルールと、それに伴う発話機能があることが明らかになった。この相違点が質問の内容に関わる重要な事項ではないとしても、「-(으)니까」、「-나요」を質問形式の一つとして片づけてはならないと考える。本稿での考察を通じて、発話機能の観点から見ると「-(으)니까요」、「-나요」には多様な使い方があることがわかった。このため、学習者のレベルに合わせて、それぞれの発話機能を中心としたより適切な場面の例文や会話文を段階的に取り入れることが重要であり、それによって徐々に自然な韓国語の使い方に移行していくことが可能になると考えられる。

注

- 1) 「丁寧体」と「普通体」は日本語の話しことばのスタイルを区分する用語であり、記述の便宜上、この用語を使って論を進めていくことにする。話し手と聞き手の関係による韓国語の待遇スタイルは、まず格式体と非格式体に分けられるが、格式体に「합니다体(上称)、하오体(中称)、하계체

コミュニケーションのための「-(으)ㄴ가」と「-나」の使い方 (秦)

(等称)、한다体 (下称)」の4種類、非格式体に「해요体 (略待上称)、해体 (略待)」の2種類が存在する。

2) 「하개体 (等称)」は格式体であるのに対し、「해体 (略待)」は非格式体であり、目下・同等の関係に使われる。

主要参考文献

- 神尾昭雄 (1990) 『情報のなわ張り理論』大修館書店
仁田義男 (1999) 『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
牧原功 (1994) 「間接的な質問文の意味と機能：ダロウカ、デショウカについて」『筑波応用言語学研究』 1 pp.73-86
三宅知宏 (2010 a) 「『推量』と『確認要求』—“ダロウ”をめぐって—」『鶴見大学紀要』 47pp.9-55
三宅知宏 (2010 b) 「『不定推量』と『質問表現』：“ダロウ”をめぐって (2)」『鶴見大学紀要』 47pp.57-75
森山卓郎 (1989) 「認識のムードとその周辺」『日本語のモダリティ』くろしお出版
고려대학교민족문화연구원 편 (2009) 『고려대한국어대사전』 고려대학교민족문화연구원
국립국어연구원 (1999) 『표준국어대사전』 두산동아
국립국어원 (2005) 『외국인을 위한 한국어 문법 2-용법편』 커뮤니케이션북스
남기심·고영근 (1985) 『표준국어문법론』 탐출판사
안주호 (2015) 「{-ㄴ가}, {-나} 형 어미에 대한 말뭉치 기반 연구」『언어학』 23권 2호 대한언어학회 pp.133-156
연세대학교언어정보개발연구원 편 (2002) 『연세한국어사전』 두산동아
임호빈·홍경표·장숙인 (1997) 『<신개정>외국인을 위한 한국어문법』 연세대학교출판부
한길 (1991) 『국어종결어미 연구』 강원대학교출판부
허웅 (1995) 『20세기 우리말의 형태론』 샘문화사

出典シナリオ (下線は本稿での略称を示す)

- 『美しい日々』で始める韓国語～シナリオ対訳集～ (2004) キネマ旬報社
『オールイン』で始める韓国語～シナリオ対訳集～ (2004) キネマ旬報社
『冬のソナタ』で始める韓国語～シナリオ対訳集～ (2005) キネマ旬報社

調査対象の教科書

- 『New 가나다 KOREAN for Japanese 中級 1』 (2017) 한글파크
『easy Korean for foreigners 3』 (2014) Hangul park
『やさしく仕組みがわかる韓国語中級Ⅱ講義ノート』 (2015) 白帝社

